

# 八戸市水産科学館マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ・シニア

## 対象の「Blue Earth Academy」 開催報告

渡邊修一・田代省三・佐々木建一・脇田昌英・山本秀樹・内田 裕・廣瀬重之・○川上 創・藤井友紀子（海洋研究開発機構）、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ・シニア一同

次世代の海洋科学技術の研究・開発を担う人材育成に資することを目的として、八戸市水産科学館マリエントの「ちきゅう」たんけんクラブ・シニア（高校生・高等専門学校生・大学生）の25名を対象として、八戸港停泊中の海洋地球研究船「みらい」で第2回「Blue Earth Academy」を平成28年8月18日から19日に、八戸市、八戸市教育委員会、八戸工業大学のご協力を頂きながら開催した。

台風7号の影響で「みらい」の入港が1日以上遅れたが、急遽、八戸市水産科学館マリエントの施設をお借りすることで、開校式や講義を進めることが出来た。講義は、微生物の多様性、青森県太平洋沿岸の津波、高精度観測が明らかにする深海の長期変化、基礎的な化学海洋学など比較的多岐に渡っており、八戸周辺から集まった参加者を意識した内容を盛り込むことで、身近な話題として捉えて頂いた。化学海洋学に関する実習では、「みらい」の実験室にて比色法による、海水中の主要な栄養素の1つであるリン酸塩の濃度測定を行った。実験器具や分析装置を実際に用いて本格的な化学分析を実施することで、研究者や観測技術員が観測航海で行っている作業を体験出来た。加えて、正確な分析を行う難しさや、技術を身に付ける上で鍛錬が必要であることも学ぶことが出来た。

今回のプログラムでは、海洋観測研究について基礎から最新の研究開発まで集中的に学ぶことで、全2日間にわたり学校の授業では得られない海洋科学技術に関する総合的な学習の場を提供した。参加者が今後の進路を考える上で、大きなヒントが得られる機会になったと推察される。



講義の様子



実習の様子